

## 小池氏に反論できず

### 米軍ヘリの給油に中谷氏

戦争法案で可能になる「戦闘地域での兵站（へいたん）」「武力行使との一体化」の実態を日本共産党の小池晃議員の質問（29日、参院安保特）で暴露された自民党が、30日の同特別委で政府側に「反論」を促しました。

自民党・塚田一郎議

員は「後方支援に関して、魚雷が届かない場所であれば、どこでも活動ができるといったような誤解を招く質疑があった」と、中谷氏に説明を求めました。

中谷氏は「相手潜水艦の魚雷の射程外、さらに相当な距離を置いて十分に安全が確保できる場所において、自衛隊は活動する」と弁明。実際の運用にあたっては「海自防衛艦を母艦として、戦闘作戦を継続している米軍ヘリに繰り返し給油整備を行うことは想定していない」と答弁しました。

た。

小池氏の質問は、「米軍ヘリへの繰り返し給油」を「想定」している海上自衛隊の資料を示して追及したもので、中谷氏は、「安全

## 首相が磯崎氏擁護

### 「注意している」更迭拒否

安倍晋三首相は参院安保法制特別委員会ですら、憲法解釈を変更して集団的自衛権を認めることに関して「法的安定性は関係ない」と発言した磯崎陽輔首相補佐官について、「私の考え、政府の考えは十分に理解している。同じ立場に立っている」と述べ、磯崎氏を擁護して続投させる考えを明らかにしました。民主・広田一氏への答

弁。

安倍首相は「電話等で注意している」「内閣としての（法的安定

を確保できる地域」において、そのような活動を行うことを否定しませんでした。仮に、現時点で「想定していない」としても、法律上は可能であることが、小池質問で明りようになっていきます。この点について中谷氏は何も反論していません。

性を確保する）姿勢は完結されている」と釈明。磯崎氏の更迭については、「しっかり職務に取り組まなければならぬ」と拒否しました。

磯崎氏は、発言が問題にされた後の28日夜、安倍首相との会食後、赤ら顔で「首相からは（何も）ない」と開き直っていました。広田氏が「面と向かう機会があつて注意するのは当然だ」と指摘すると、安倍首相は「この場の以前に、すでに注意をしている」と聞き直りました。